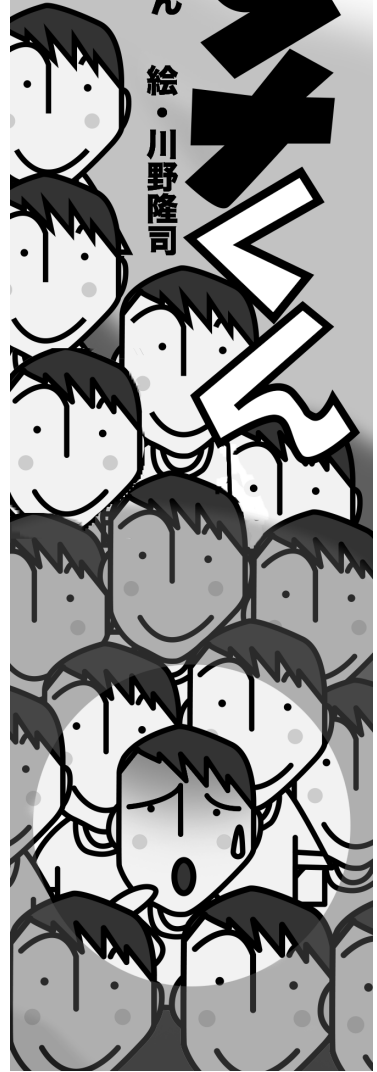


ミンナくん

作・あさだりん 絵・川野隆司



ある朝学校へ行ったら、教室に知らない子がいた。
「あれ、だれ？」

となりの席のマコちゃんにきいてみた。
マコちゃんは、びっくりした顔でぼくを見る。

「だれって……、ミンナくんよ」

「ミンナくん？ 転入生？」

「ミンナくんはミンナくんでしょ？ 前からいたじゃない」

「ウツンだあ」

「本当よ。ケントくん、どうしちゃったの？」

マコちゃんは心配そうに、ぼくの顔をのぞきこむ。だまそうとしているのかと思ったけれど、まじめなマコちゃんがウソをつくとも思えない。

おかしいなあ。あんな子、うちのクラスにいたっけ？

ぼくは横目で、その子をながめた。

顔はまるいようで、でもちよつと四角くて、細長くもあるし、三角っぽいかんじもする。目は大きくもなく、小さくもない。よく見かけるような髪型をして、誰もが着ているような服を着ている。

うーん、どこかで見えたことがあるような気がするんだけど……。

「みなさん、おはようございます」

先生が教室に入ってきた。一時間目は、国語だ。

教科書をみんなで音読したあとに、先生がいった。

「このとき、主人公はどう思ったでしょうか。自分の考えをノートに書いてみましょう」

えーっ、やだな。主人公がどう思っていたかなんて、ぼ